

松本古墳群及び周辺地内遺跡確認調査報告書

平成16年(2004)3月

島 根 県

三刀屋町教育委員会

はじめに

「松本古墳群」は、島根県飯石郡三刀屋町大字給下字松本地内に存在する古墳群で、現在6基が確認されている。

この内「松本第1号古墳」は、4世紀中頃に築造された前方後墳で、山陰地方を代表する古式古墳であり、「史跡」として島根県の指定文化財となっている。

また、「松本3号墳」は未発掘ではあるが、出雲考古学研究会による昭和63年（1988）から3年間を要しての古墳群全体の詳細な測量調査の結果、第1号古墳に匹敵する、あるいはそれより古い古墳である可能性が指摘された。

さて、「松本古墳群」は、いずれも南面する尾根上の比高約40メートルの丘陵に築造されているが、そのほとんどが山林でせっかく興味を持って訪れて頂く方々にも、大変ご不便をお掛けしているのが実情である。

かねてから、本町では、「松本古墳群」の保存と活用を図るため、古墳群の公園化と後背地の谷筋を利用して車の通行可能な散策路や駐車場、休憩所などの便益施設の整備を検討してきたところである。しかし、指定地に隣接しているところから開発の手法にも制約があり、その前提となる論拠を得るため、本年度に国・県の補助を得て遺跡の確認調査を実施したものである。

調査の結果、開発を予定している箇所から新たな遺跡の発見等はなかった。これは「松本第1号古墳」発見の端緒となった昭和30年代の畑地開墾に際して、重機によって地山を含めほとんどが削平されたためではないかと思われる。

これを受けて、調査指導会においても細心の注意を払いつつ今後の整備計画を進めることで、ご了解を頂いたところである。

本町も、近隣5町村と今年11月に合併し、新しく「雲南市」として再出発することになっている。今後は新市の下で、年次計画に基づき順次整備していただきたいと考えている。

最後に、この調査にあたって、国・県ご当局、調査指導者、調査員・調査協力者等多くの方々のご支援を頂いた。記して、深甚なる謝意と敬意を表する次第である。

平成16年（2004）3月

三刀屋町教育委員会

教育長 永塚久守

例 言

1. 本書は、県指定史跡である松本第1号古墳をはじめとする松本古墳群の保存・活用のための整備基本計画に基づき、平成15年度国庫補助事業として実施した遺構分布調査の報告書である。本来、古墳群全域にわたる調査を行うべきではあるが、期間や予算に限度があり、一次施工計画とした範囲に主眼をおくこととしたのである。

2. 調査体制は以下のとおりである。

調査主体	三刀屋町教育委員会教育長 水塚久守
調査指導 (敬称略)	島根県教育庁 文化財課 蓮岡法暉 島根県文化財保護審議会委員 杉原清一 島根県文化財保護指導委員
調査員 (敬称略)	板垣 旭 三刀屋町事務吏員主幹 杉原清一 島根県文化財保護指導委員 藤原友子 三刀屋町文化財保護委員
事務局	三刀屋町教育委員会
調査協力 (敬称略)	松本古墳を考える会 (代表 難波英治) 野津 旭、佐野木信義 (仁多町文化財調査室)

3. 現地の作業は範囲内の藪刈り、トラバース測量、トレンチ調査であり、次の日程でその間随時行った。トレンチは調査後埋戻しを行った。

調査打合せ	平成15年7月9日	
調査作業	8月2日～10月11日	この間作業日数37日間
指導検討会	9月18日、12月22日	

目 次

1	松本古墳群とその現状について	1
2	地形と古墳の配置	1
3	調査地点の選定と方法	3
4	調査結果	3
5	むすび	5

図 表 目 次

松本古墳群の位置・松本古墳群と周辺の遺跡	2
基準点測量成果表（座標・標高）	6
松本古墳群踏査概念図（ $S = 1 / 3000$ ）	7
地形実測図（ $S = 1 / 1000$ ）	8
トレンチ測図 T1～T3	9
T4～T6	10
T7～T9	11
T10～T12	12
T13～T15	13

図 版 目 次

PL 1	松本古墳群遠景、松本1号墳
PL 2	調査指導会、作業風景
PL 3	トレンチ状況（T2・T4）
PL 4	" （T6・T10）

1. 松本古墳群とその現状について

この古墳群発見の端緒は、昭和34年（1959）果樹園としての植栽穴を掘って土器が出土したことによる。¹⁾昭和36年（1961）に島根県教育委員会が三刀屋町の依頼により実施した踏査（分布調査）において、県内に希有の大形前方後方墳をはじめとする4基の古墳群を確認した。¹⁾以来、山陰を代表する前期古墳群として重要視されている。その後の踏査で新たに2基の確認を加え、現在では1～6号の古墳群として7基周知されている。この古墳群の構成については、次のように分布調査の都度各号の呼称に乱れがあることから、本文では最も新しい文献4の呼称によることとした。

松本古墳調査報告 山本：1963年 文献1	県遺跡調査カード 勝部：1973年 文献2	三刀屋町の遺跡 (分布調査) 杉原：1988年 文献3	松本古墳群 (出雲を考える7) 出雲考古研： 1991年 文献4
1号墳	1号墳	1号墳	1号墳
2号墳	2号墳	2号墳	2号墳
	5号墳	3号墳	3号墳
4号墳	4号墳	4号墳	4号墳
3号墳	3号墳	6号墳	5号墳
	6号墳	5号墳	6号墳

(踏査概念図参照)

2. 地形と古墳の配置

この古墳群は、北は三屋神社裏山から南の梅窓院裏山に至るやや弧状をなす尾根上に所在し、上記各号の古墳は旧開畑によってフラットとなった地形上に取り残されたように墳丘が点在している。開畑したところはその後三屋神社脇から進入路をつくり、重機によって整備削平して桑園としたものであるが、現在は荒廃して篠竹や雑木雑草の密生した藪になっている。ただし、2号墳隣接地はさらに宅地目的で削平されたとのことであり、現在は広場となっている。また、梅窓院脇から1号及び3号墳への登路は草生ながら確保されており、これが三屋神社脇の作業路へと連絡していて、この古墳群を一巡することができる。

各古墳の立地する局部地形はいずれも尾根稜線上の高まりを加工して墳丘としている。これを勘案するとA地点・D地点にも、そしてB地点にも、かつては営まれていた可能性がある。以上のように、この松本古墳群はほぼ東方に開く弧状の尾根上に営まれたもので、麓からの比高約50～20mであり、三刀屋川下流部から斐伊川合流部あたりまで視界が広がる立地である。そしてこの古墳群は、三屋神社脇の狭く急な小谷と古城側堤廻りによって括れる位置までが古墳域と考えられる。



松本古墳群の位置



1. 松本古墳群
2. 宮内遺跡
3. 浜遺跡
4. 横原遺跡
5. 粟谷遺跡
6. 岩広古墳
7. 太田横穴墓群
8. 斐伊郷新造院跡
9. 城名樋山城跡
10. 秋葉山城跡
11. じゃ山城跡
12. 三刀屋城跡
13. 御城山城跡
14. 粟谷城跡
15. 多久和城跡

S = 1/50,000

松本古墳群と周辺の遺跡

3. 調査地点の選定と方法

松本古墳群整備基本計画に沿って、開発に係わる部位の遺構等の存否を確認することを目的とした。これには全域にわたる詳細な地形図の作製が最も必要であり、その上で必要と思われる地点について試掘を行って確認すべきものと考えた。しかし日数等の制約から、この度の調査は第一次施工計画とされている進入路改良部とそれに関連する駐車場及び頂部の古墳模型広場で、いずれも車輛進入を目的とする部位とし、さらに南に下った2号墳隣接のイベント広場計画地点に限定することとした。

調査の方法は、まず現通路沿いにトラバースを組み、計画路線に沿って平板による地形測量を行いトレンチは15か所に設けて検討することとした。なお1号・3号・4号及び2号墳墳丘については先に行われた実測図⁴⁾を援用し、トレンチは路面部分や植栽などの部分は除いて行った。

4. 調査結果

松本古墳群の立地する丘陵はほとんど同一の土質である。地山心土は強粘質で風化の強弱により、ところによっては団塊状小石を含むところもある。その上の表土化した土層は植生の影響によってわずかに暗色となり、削平部は薄く、盛土部は心土のブロックを混じえて厚い。表層土は現生植物の根群が主となるものである。各トレンチについてみる。

- T 1：現道路を造るときに削り出した切法面と、谷間方向に盛り出した盛上部についてみた。切法面は崖状で表面がわずかに風化しているがすべて地山心土である。盛り土面は路端部で約20cm厚を測り、その下は旧表土であった。盛り土量は少ない。これは旧路を若干拡幅するに止めたことによると思われる。
- A T 2：尾根端に近い畑地へ分割り路で登りつめた位置であり、畑地の耕土下は風化した地山土である。尾根端方向（東側）は林地の自然斜面に移るところまでであるが、20cm厚の自然表土下は地山まで人工の痕跡はない。なお畑地には廃棄された桑株が植栽のまま残存している。
- A T 3：畑地を重機で造成した縁辺部で、地山心土を押し出して畦状とし畑地と自然林地が区分されている。押し出し土は自然表土層上に盛り上げていて林地部の表土は厚さ20cmほどであり、人工の跡は認められない。
- A T 4・5：畑地の縁辺部から下方の林地へかけての部位である。畑地から削り出して押し出した盛土が厚さ0.6～1.0mもある。林地自然土層の上へ盛土したものであった。畑地部分には桑植栽の溝が深さ0.5～0.7m掘り込まれている。

- A T 6 : 尾根上中心位置とおぼしき位置の畑地。畑地造成により均平され耕土下は削られた地山心土である。畑地のほぼ中央あたりは地山面・地表面ともに幅3m以上にわたって約10cm高く、本来の尾根頂部の高まり位置を示すものと思われた。しかし強く削平されていて旧地形は推定できなかった。なお南側直下には6号墳がある。
- T 7 : 張り出し尾根の頭部にあたるところで、上記畑の西端にあたる位置である。稜線上の現通路に地山心土がみえており、一段低い畑地は切り土と盛り土で均平され、稜線から5mほどから約45°傾斜で地山心土層は急降下している。南側7mほどは比較的緩やかであるが、それからは急斜面となる自然地形である。
- B T 8 : 北からの狭い尾根が分岐する南側三角形の畑地である。ごく緩かに南へ下る畑地で耕土下はすべて地山心土の削平面である。耕土を畦状に盛って桑を植えた列が並ぶ、旧地形は認め難い。畑地端からは下降する斜面の林地であり、自然地形のままとみられる。
- C T 9 : 3号墳北側墳裾を通る路の切法面の観察である。後方部北隅にあたり、墳形整形の裾部削平面の末端とみられる表土の薄い平坦面が、幅約1.5mほどある。その他は自然の土層序であり、加工痕は認められない。
- T 10 : 2号墳西側墳裾から西方へのトレンチである。古墳中心から10mが周溝とみられ、現地表下約60cm、現墳頂面からの落差は2.6mである。そしてこれから3m以遠は1.6mほど強く削り下げて下段の畑地となっていて、桑を植えた植栽溝が耕土下の地山削平面に掘り込まれていた。
- D T 11 ~ 15 : 2号墳の南隣接で2.5m低く、30×30mほどもある削平広場である。畑地造成ののち、宅地目的でさらに整地したところという。ほぼ中心から5方向へのトレンチを設けた。草もほとんど生えないほど強く地山を削った面であり、表土はなく、一部地山母岩質まで削平されていた。削り出した土で盛土したのは南側縁辺5~8ほどの部分と推定され、盛土の裾は緩かな自然斜面に達している。旧地形に関する何らの手がかりも得られなかった。

以上の状況を概括すると、A地点は重機によって広く強く地山に達する削平をおこなって畑地となっており、旧地形を知ることはできなかった。B地点も同様である。C地点において3号墳墳裾の整形が、一部分路を挟んだ西側にも及んでいると思われた。D地点は再度にわたり、地山心土にまで達する削平によって旧状を知る手がかりはなかった。

またこれらのトレンチにおいて残存又は混入する遺物等は全く見当たらなかった。

5. むすび

気づいた諸点を列記してむすびとする。

1) 各古墳の号呼称はこれまで4種の文献の間に異同があり、混乱のおそれがあることから早急に統一すべきものと考え。これには現行の地図や地元での呼称を尊重すべきであろう。本報告は1～4号墳及び6号墳については文献4によった。

2) 本古墳群は三屋神社裏への支尾根を含むとみて北からの登路の小谷から、やせ尾根を超えて字堤谷へ下るラインで区画されるものと考えられる。

3) 北からの登路は自然の急斜面につくられていて、遺構に関与する部分はないものとする。

4) A地点は尾根端丘頂部であるが、畑地造成に際し強く削平されていて旧地形等を知ることは出来なかった。なお丘端を東へ約8mの斜面には幅4mほど弧状の削平段があり、下方所在の三屋神社との関連が思われる。またT6トレンチの南急斜面には地山をカットして小さい円墳（終末期か）がつくられており、主体部あたりは大きく盗掘坑となっている。これらを勘案すると、その上方にあたる尾根上には古墳が存在していた可能性も否定できない。

5) C地点とした3号墳後方裾部の整形平坦面が通路を挟んだ外方（北西側）にも一部及んでいると認められた。

6) D地点は現在広場として用いられているが再三にわたり削平がくり返されたところであり、旧状を知る手がかりは得られなかった。外周地形からみると2号墳規模の古墳がもう一基存在していたとしても不思議でない。

7) このほか梅窓院本堂裏の竹林中にも低いマウンドがあり、また同寺の現行墓地となっているマウンドも、ともに古墳とみられているが、号呼称に乱れがある。これについてはこの度検討の対象としていない。

文献

1. 山本 清：『松本古墳調査報告』島根県教育委員会 昭和38年（1963）3月
2. 勝部 昭：「島根県埋蔵文化財包蔵地調査カード」県文化財課
昭和48年（1973）8月
3. 杉原清一：『三刀屋町の遺跡 I 三刀屋・一宮地区』三刀屋町教育委員会
昭和63年（1988）1月
4. 出雲考古学研究会：『松本古墳群』—古代の出雲を考える7— 同研究会
平成3年（1991）3月

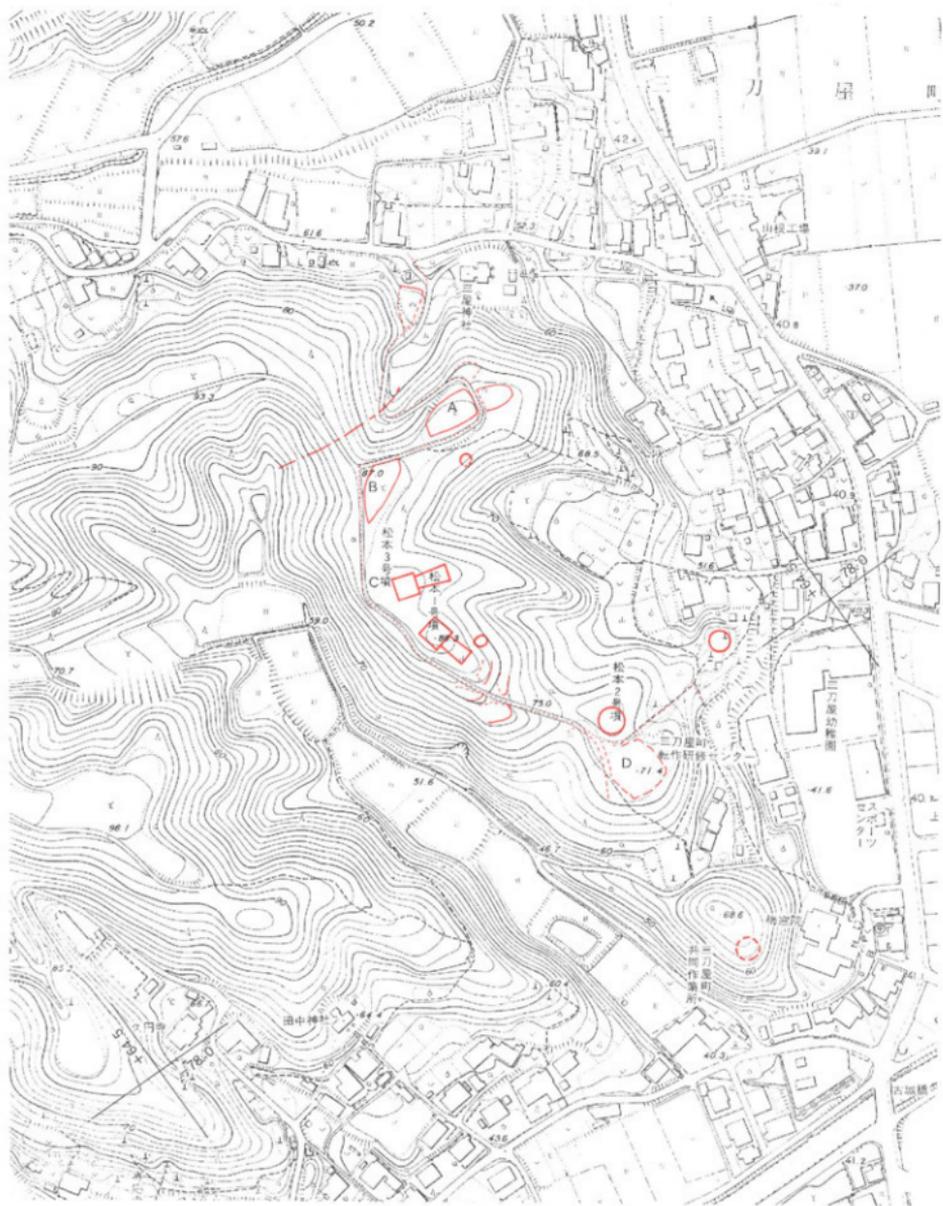
松本古墳群トラバース計算（座標値）

測点	調正内角	方位角	水平距離	+	x	-	△x	y	△y	X	Y	
1	27' 59' 00"	212' 16' 10"	30.81			26.05	1		16.45	2	-77,681.20	+64,926.70
2	203 40 20	235 56 30	22.72			12.72			18.82	2	707.24	910.27
3	206 21 40	262 18 10	22.31			2.99			22.11	3	719.96	891.47
4	147 59 40	230 17 50	38.01			24.28	1		29.24	4	722.95	869.39
5	81 00 50	131 18 40	17.18			11.34		12.90		2	747.22	840.19
6	136 18 20	87 37 00	41.34	1.72				41.30		5	758.56	853.11
7	276 07 00	183 44 00	28.33			28.17	1	1.84			756.84	894.46
8	265 00 20	268 44 20	27.30			0.60		27.29	3		785.00	892.62
9	196 37 30	285 21 50	25.65	6.80				24.73	3		785.60	865.36
10	190 29 40	295 51 30	28.51	12.43				25.66	3		778.80	840.66
11-2	98 17 30	214 09 00	82.03			67.89	2	46.05	5		766.37	815.03
12	122 07 10	156 16 10	21.14			19.35	1	8.51	1		834.24	769.03
13	205 50 20	182 06 30	32.95			32.93	1	1.21			853.58	777.55
14	146 49 30	148 56 00	35.12			30.08	1	18.12	2		886.50	776.34
15	185 00 00	153 56 00	28.93			25.99	1	12.71	1		916.57	794.48
16	159 25 00	133 21 00	34.89			23.95	1	25.37	3		942.56	807.20
17	203 53 50	157 14 50	35.04			32.31	1	13.55	2		966.50	832.60
18	104 20 40	81 35 30	44.76	6.55				44.28	5		998.80	846.17
19	227 41 20	129 16 50	15.65			9.91		12.11	1		992.25	890.05
20	55 00 20	(4 17 10)	321.76	320.86			9	24.05	3		8,002.16	902.62
	326° 00' 00"			348.36	348.56	20	212.90	213.40	50			

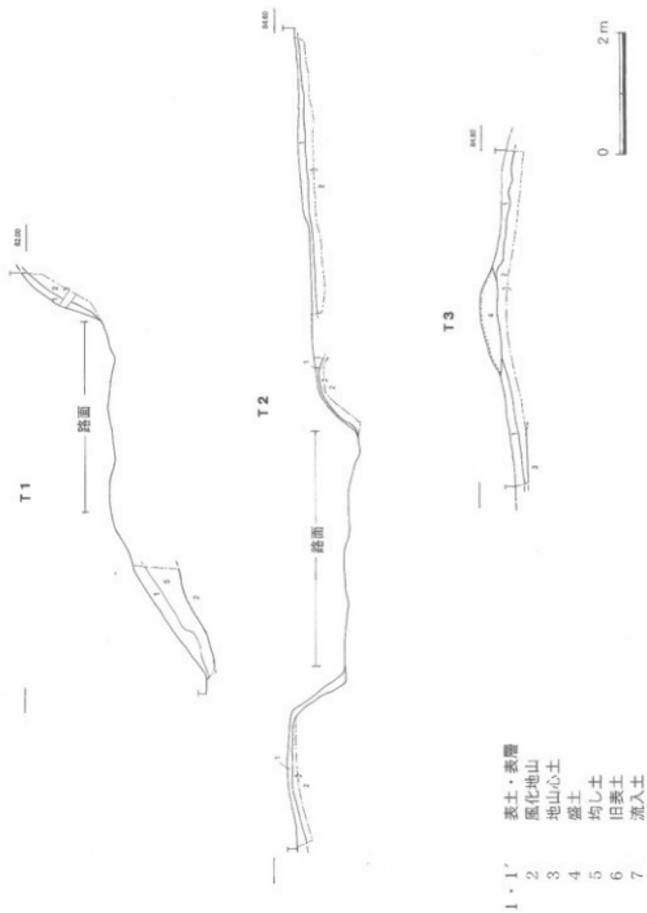
測点No.1は地籍図所収の国土調査杭を用い、その座標をX=-77,681.20 Y=+64,926.70として基準とした。

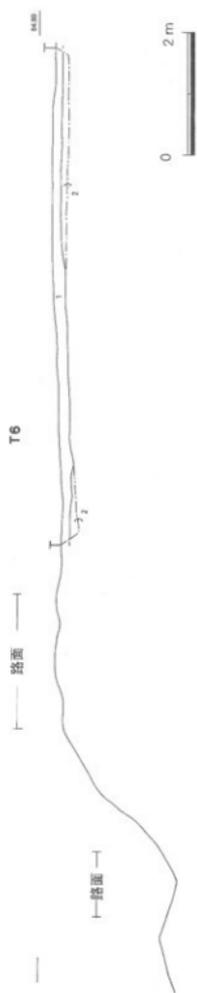
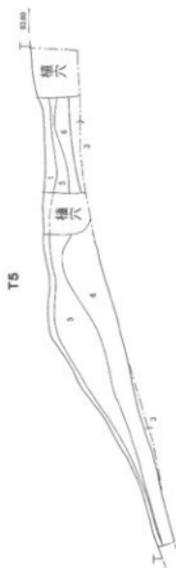
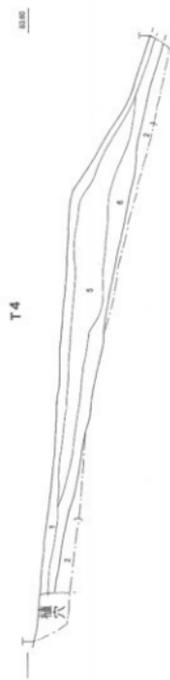
松本古墳群 トラバー杭 レベル計算

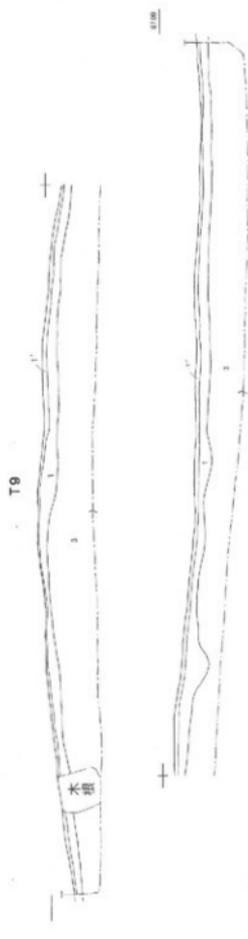
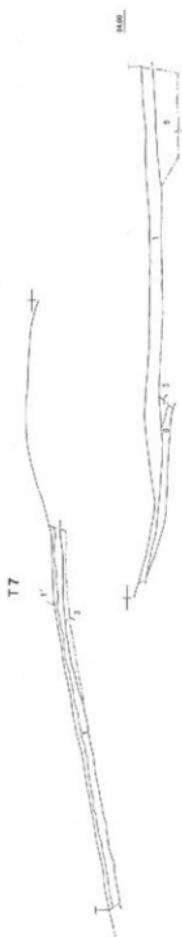
測点	上下角	斜距離(m)	昇(m)	降(m)	標高	備考
石垣角						標高52.30 (代官家分岐路標高 52.30mとして)
1 (国調)	+ 7' 49' 00"	31.10	5.283		57.583	
2	+ 6 19 10	22.86	4.215		61.798	
3	+ 8 11 10	22.54	2.516		64.314	
4	+11 55 10	38.85	3.209		67.523	
5	+ 6 27 50	17.29	8.024		75.547	
6	+ 5 43 20	41.55	1.946		77.493	
7	+ 5 39 30	28.47	4.143		81.636	
8	+ 0 55 10	27.31	2.807		84.443	
9	+ 1 25 30	25.66	0.438		84.881	
10	+ 2 55 20	30.55	0.638		85.519	
11 (国調)	- 0 30 00	82.03	1.557		87.076	
11-2	-	-	-	-	-	
12	1 56 20	21.15		0.716	86.360	
13	2 59 30	33.00		0.657	85.703	
14	2 52 20	35.16		1.722	83.981	
15	11 14 00	29.50		1.762	82.219	
16	7 15 10	35.17		5.747	76.472	
17	1 04 50	35.05		4.440	72.032	
18	7 49 20	45.18		0.661	71.371	
19	11 38 10	15.98		6.149	65.222	
20	11 41 30	8.73		3.223	61.999	
21 (国調)				1.769	60.230	標高60.23
			(34.776)	(26.846)		



松本古墳群踏査概念図

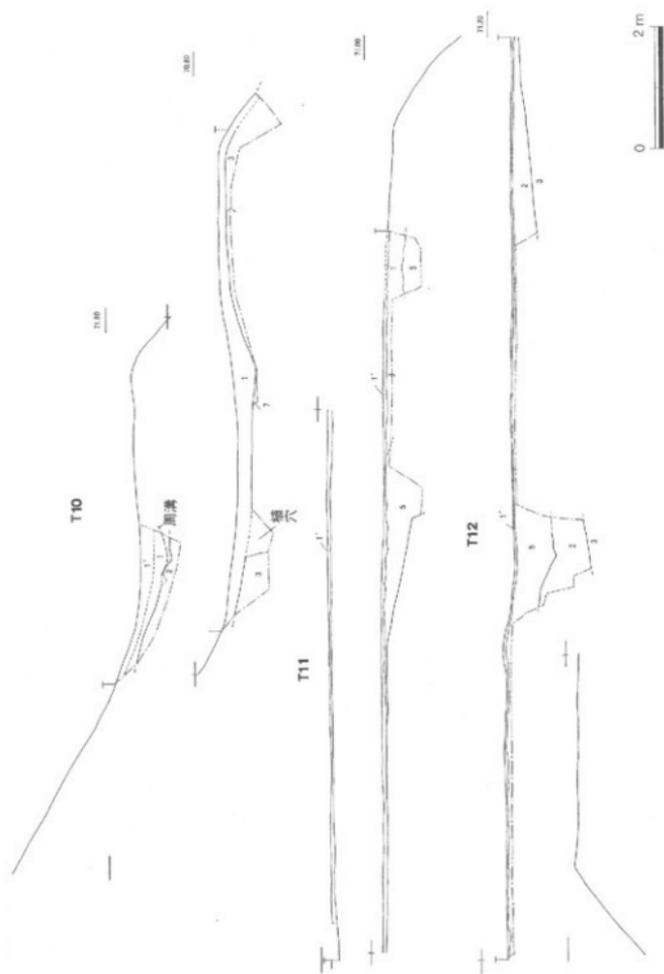






木棚





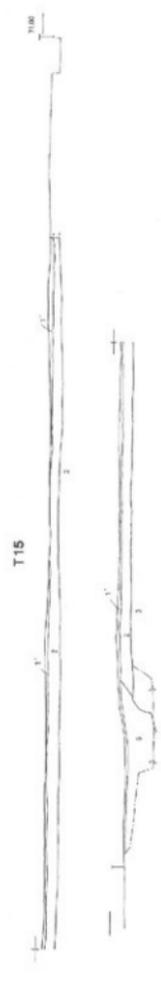
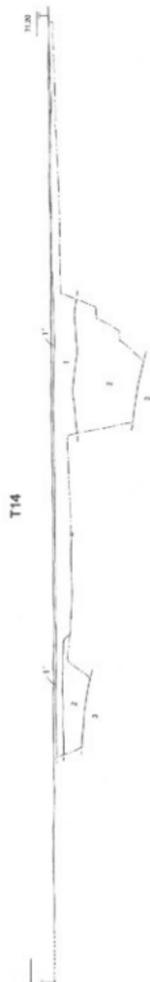
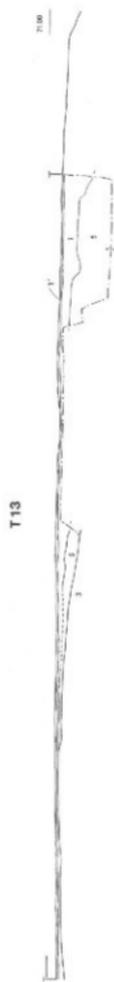


圖 版



松本古墳群 遠景



松本1号墳の現況



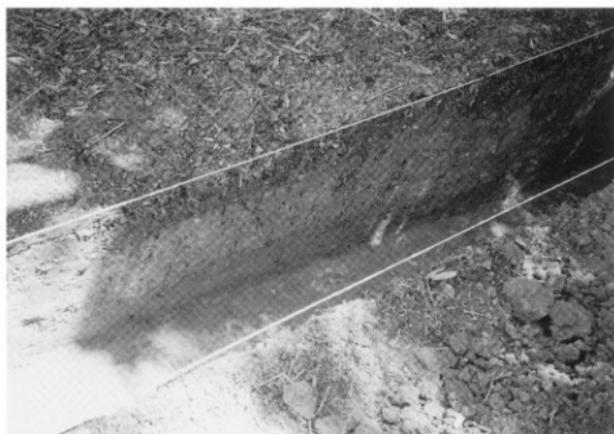
調査指導会



作業風景



T 2



T 4

PL4



T 6



T 10 (2号墳 墳裾)

松本古墳群及び周辺地内
遺跡確認調査報告書

平成16年（2004）3月

発行 三刀屋町教育委員会

〒690-2405

島根県飯石郡三刀屋町大字古城1-1

TEL 0854-45-3033

印刷 (有)木次印刷

島根県飯石郡三刀屋町大字給下1635

TEL 0854-45-2515

